

## 平成26年度第2回子ども読書活動推進協議会 議事録

日時：平成27年2月18日（水）午後3時35分～午後4時30分

場所：豊田市中央図書館会議室

出席者：委員 5名

豊田市中央図書館職員（事務局）9名

関係課 教育センター、生涯学習課、次世代育成課、保育課、子ども家庭課

欠席者：豊田市子ども読書活動推進協議会委員 3名

### 1 開会

### 2 図書館長あいさつ

### 3 会長あいさつ

### 4 議題

#### (1) 第2次豊田市子ども読書活動推進計画の実施状況について

(委員)

平成26年度取組計画で、図書館で「各交流館を活動拠点とした子ども読書活動に係る地域ボランティアの実態調査」が行われたとあるが、平成27年度取組計画には地域ボランティアという内容がなくなっているのは、実態調査がもう終わったということか。また、実態調査を踏まえ、地域ボランティアに対する中央図書館の連携等についてはどのような考えか。

(事務局)

実態調査は7月に行った。これは子ども読書活動に限らず、交流館の図書室に関わるボランティアすべてについて調査をした結果、15の館で活動していただいております。全てが子どもに係る活動であった。ボランティアの実態がおおよそつかめたので、引き続きもう少し細かい調査をかける予定である。

(委員)

平成26年と27年の予算を比べると大体同じだが、こども図書室はととも増えている。施設がきれいになったこともあり、重点的に見ていただいております。図書館主催のコンクールが減って残念とお話したが、読書ノートの見本を見せていただいたところとてもすばらしく、こちらにお金をかけていただいた方がいいと感じる。この読書ノートをもらえたら、子どもたちは嬉しいと思う。できれば全学年分あるといいと思う。

(教育センター)

第二次子ども読書活動推進計画で、家庭で読書を推進するため、学校と家庭をつなぐものが重要ということでこのノートを作成した。作るうえで一番考えたのは、子どもがもらった時に「嬉しい」「楽しい」「使ってみたい」という気持ちになるものにするということ、また、保護者の方がお子さんに本への興味を持たせるきっかけになるようなものというこ

と。学校は配布するだけであとは家庭にお任せということでは意味がないので、学校がきちんと関わっていけるよう、学校で使用するページも入れ、いろいろご意見をいただいてこの形となった。本当はいろいろな学年のものがあるといいが、まずは1年生で試してみられればと思う。

(委員)

読書は一人でやるものだが、子どもの読書は人と人との関わりの中でやるもの。一人でやる読書はただの知識になってしまい、心には届いていない等、時として危ういものとなる。たくさん読んだからいいというわけではなく、子どもの時期に、親や先生や友達との関わりの中で読書をしたという記録としてこのノートがあることは、思い出と一緒に本が心の中に残りとてもいいと思う。

(教育センター)

ほかの自治体のことは分からないが、豊田市は、公共の図書館と学校の連携がよく取れていると感じる。この事業のほかにも団体貸出など学校への支援が厚く、ありがたいことだと思う。

(委員)

平成27年度取組計画に、「学校図書館司書の配置の拡大に向けて検討」とあるが、これはどの程度進んでいるか。

(教育センター)

学校図書館司書については、6月に学校図書館法が一部改正され、学校図書館司書配置の努力義務というものができることにより、学校図書館司書の配置が学校における課題になっている。豊田市では平成19年度から学校図書館への司書の配置をし、現在は全校への配置が完了しているが、配置日数はまだ平均で週1回程度で、非常に少ない。配置の拡大に向けて検討している。来年度は様々な事情から予算が出なかつたが、28年度には配置拡大に向けて努力する。また、配置拡大に当たっては力量の向上も必要となり、採用に向けて学生の研修や育成を行っていきたいと考えている。

(委員)

19年度から司書を配置して、読書量が5～6倍に上がったという実績があるが、国全体の動きは現在どのような状況か。

(教育センター)

法の一部改正ということで、学校図書館法そのものに1文加わったという形。ただ配置はあくまでも「努力義務」という形であり、すぐさま配置しなければならないという

ような条文ではないため、努力を重ねて配置をしていく方向である。現在は色々な所が配置を検討している状態で、先日、名古屋市も配置の検討に入ると聞いた。

(委員)

現状では、周辺の都市はまだやっていないところが多いのか。

(教育センター)

安城市は一昨年から行っている。

(委員)

岡崎市は、教員補助のような形にして、週1日は図書館業務につくという案が校長会で出たと聞いている。理想は1校に1人だが、それが難しいならば、西尾市のように中学校区に1人程度の配置にして、近隣の学校との連携にした方が移動が少なくていいと思う。

豊田市は広域で、移動時間がロスになる。

(委員)

今は、多い人は3校程度掛け持ちか。

(教育センター)

多いと5校掛け持ちである。

(2) 第2次豊田市子ども読書活動推進計画の中間見直しについて (案)

委員からの発言なし

以上